

(第1号議案) 令和5年度事業報告

<令和5年10月1日～令和6年9月末>

代表幹事 入倉 要

令和5年度は、前年の5月に新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことでの経済活動が本格的に再開し、観光業や飲食業を中心に回復の兆しが見られました。一方で、円安や原油高による物価高騰は企業収益や家計を圧迫し、経済状況は依然として厳しい状況でした。

国際情勢においても、ロシア・ウクライナ戦争や台湾有事の危機といった地政学的な問題も依然として解決の兆しが見えず、今後の米国大統領選や衆議院総選挙など政治的な不確実性が高い中、以前から続く北朝鮮のミサイル発射など、緊迫した情勢が続いている。

そのような中、令和5年10月から始まった令和5年度の山梨経済同友会の活動は、前年にコロナ禍後の「再起動」として、組織を一新させた活動の2年目となり、各委員会・部会が活発な活動を展開することとなりました。

長澤重俊代表幹事が担当した『シン・ヤマナシ構築委員会』では、令和5年8月に山梨県に提言した提言書「シン・ヤマナシ実現に向けて」～若者が幸せに暮らせる山梨にするために～の内容を実現するために、若者と情報交換をする交流会をスタートさせるなど、「シン・無尽」スタイルの提案＆発信を経済同友会の枠を越えて始めました。

私、入倉要が担当した『山梨ブラッシュアップ委員会』では、他団体との連携事業や継続事業、そして会員間交流や情報発信を行いました。

他団体との連携事業では、コロナ禍の数年のブランクが大きく、再起動に苦労しましたが、「女性にプラス！パートナー会議」では、前回開催時以上の参加者数そして盛り上がりもあり、今後の展開がたいへん楽しみです。「つばさを広げる会」も学生だけでなく、若手社会人も加えた形での開催を進めており、「シン・無尽」に繋がる新たなイノベーションを期待しているところです。

令和6年11月8日に山梨開催が決定している経済同友会中央日本地区会議「山梨」については、実行委員会を立ち上げて山梨経済同友会全体で、9年ぶりの山梨開催を盛り上げる機会とし、山梨らしい大会を目指して準備を進めてきました。そして、山梨経済同友会が推進する「シン・無尽」などの事業を広く発信したいと考えています。

また、令和5年度の活動の中で特筆する点として、山梨大学の中村和彦学長が、経済同友会の活動に深く関与していただき、大学組織や学生との関係を強化できたことがあります。これまでにも、産官学の連携という言葉は使っていましたが、実際に大学のトップと経済界が協働し地域課題の解決へつながることは、山梨にとって大きな意義を持つことだと感じます。令和6年度の新たなスタートにあたっては、これまでの活動の見直しを行い、大学との連携を一層強化し、成果につなげていきたいと考えています。

以上が、令和5年度一年間の活動報告になります。



(5.10.26 総会にて 長崎知事 講演「未来へ進化する“やまなし”」)



(6.1.5 新年祝賀合同互礼会)

(6.4.4 会員交流懇親会「お花見」)



(6.8.5 会員交流懇親会「納涼のタベ」)